

第5回さっぽろ連携中枢都市圏関係首長会議

会 議 録

日 時：2023年6月1日（木） 午後4時開会
場 所：札幌グランドホテル東館 3階 玉葉

1. 開 会

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） 定刻までまだちょっとお時間がありますが、皆様がおそろいになっておりますので、ただいまより第5回さっぽろ連携中枢都市圏関係首長会議を開催させていただきます。

本日は、ご多忙の中、ご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。

本日の進行を務めさせていただきます札幌市まちづくり政策局長の小角でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の進め方でございますが、お手元の次第でございますとおり、札幌市より昨年度の連携事業の実施状況や今後のスケジュール等についてご説明をさせていただきます。その後、皆様と闊達な意見交換を行わせていただければと考えております。

それでは、開会に当たり、札幌市長の秋元克広よりご挨拶を申し上げます。

○秋元克広札幌市長 皆様、本日は、お忙しい中、お集まりをいただきまして、ありがとうございます。

このさっぽろ連携中枢都市圏関係首長会議は、2019年3月に協約を結ばせていただき、今回で5回目の開催となりまして、圏域の将来像である「住みたくなる」「投資したくなる」、「選ばれる」さっぽろ圏域の実現に向けて様々な事業に取り組んでいきたいと思います。ということを進めてきております。

協約を結ばせていただいた翌年の2020年からは、新型コロナウイルス感染症の拡大がありまして、とりわけ、観光や食の分野において大変大きな影響を受けた3年ほどでございました。ようやく昨年の中ほどから観光関連の人の戻りがありまして、まだまだコロナ前の状況には至っておりませんが、国内外から多くの方に北海道にお越しをいただいておりますし、この間、企業の進出も順調に進んできているところでございます。

今年3月には北広島市にFビレッジが開設されておりますし、千歳市においては、ラピダスの進出により、次世代半導体の製造拠点が立地されます。また、これまでの食や観光に加えて、ITなどの様々な取組や、石狩市をはじめとする洋上風力発電など、こういった新たな環境に向けての取組により、北海道全体、そして、この圏域が非常に注目されてきているのかなと思っております。

さらに、この圏域の直近の人口は259万人でありまして、北海道全体の51%を占める状況にまでなっております。そういう意味では、このさっぽろ連携中枢都市圏は北海道全体の発展に向けてますます重要な役割を担っていくことになると思っております。

後ほどスケジュール等について説明をさせていただきますが、今年度は第1期のビジョンの計画期間の最終年度となりますので、令和6年度からの第2期のビジョンの策定についてご議論をさせていただき、それにより圏域全体のサービスを向上させ、より多くの方が住みたくなる、訪れたくなる、また、投資を呼び込める環境をつくっていただければと思っております。

今日は、限られた時間ではありますが、皆様方の忌憚のないご意見をいただきながら、来年度からの計画策定に向けての議論のスタートとさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

2. 資料説明

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） それでは、議事に先立ちまして、配付資料の確認をさせていただきます。

本日、お手元にお配りしておりますのは、会議次第、出席者名簿、座席表、そして、資料1から資料4でございます。漏れはございませんでしょうか。

本日の出席者につきましては、大変恐縮ではございますが、配付いたしました出席者名簿をもってご紹介に代えさせていただきますたく存じます。

なお、オブザーバーとしてご参加をいただいております北海道総合政策部の地域振興監につきましては、人事異動により本日付で着任されたため、今回はご欠席との連絡をいただいているところでございます。

それでは、次第に基づきまして、議事を進めさせていただきます。

まずは、札幌市まちづくり政策局政策企画部長の加茂より、資料に沿って、昨年度の連携事業の実施状況及び今後のスケジュール等についてご説明させていただきます。

加茂部長、よろしくお願いいたします。

○加茂札幌市まちづくり政策局政策企画部長 札幌市まちづくり政策局政策企画部長の加茂でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

お配りした資料について順にご説明をいたします。

まず、A4判縦の資料1のさっぽろ連携中枢都市圏の推進体制に関する要綱をご覧ください。

本会議については、第1条の末尾にございますとおり、さっぽろ圏の持続的な発展に寄与することを目的として、第2条に基づき、開催させていただいております。

続きまして、A3判横の2枚物の資料2をご覧ください。

さっぽろ圏の昨年度の連携事業の取組状況についてご説明をいたします。

さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンでは、右上に記載の「住みたくなる」「投資したくなる」、「選ばれる」さっぽろ圏域を目指すべき将来像として掲げ、右下に赤字で記載している三つの役割、圏域全体の経済成長のけん引、高次の都市機能の集積・強化、圏域全体の生活関連機能サービスの向上のそれぞれの分野において各種連携事業を実施しております。

2枚目をご覧ください。

主な事業の概要と昨年度の実績を記載しております。

まず、左上の1の圏域全体の経済成長のけん引についてであります。一番上の赤字で記載した項目の連携した企業誘致の推進では、事業概要の欄にございますとおり、産業展

示会への共同出展として、昨年5月に東京ビッグサイトで開催された企業立地フェア2022に共同出展しております。

また、事業概要欄にごございます企業立地補助の実施等につきましては、その右側に記載のとおり、札幌圏設備投資促進補助金の運用として、昨年度、恵庭市に工場を立地された株式会社久原本家食品様にご活用していただく予定となっております。このほか、連携市町村に立地予定の案件の申請が複数ございまして、今後、補助適用予定となっております。

次に、二つ下の赤字の項目の新製品、新技術の開発のための支援ですが、千歳市の株式会社FJコンポジット様が燃料電池の製造に必要となるセパレーター板の成形技術を開発されたほか、恵庭市のフロントテック株式会社様が凍結真空乾燥装置の製作に向けた開発、設計に取り組まれたところでございます。

次に、2の高次の都市機能の集積・強化についてでございます。

3項目めの丘珠空港の利用促進ですが、イベント等による周知活動のほか、機材更新によるキャパシティの拡大、さらには、松本線や静岡線の運航再開、期間延長等により、ビジネス客を中心に利用が増え、旅客数は30万人を超えております。

続きまして、右上の3の圏域全体の生活関連機能サービスの向上についてでございます。

2項目めの公立夜間中学の共同活用ですが、令和4年4月に開校した北海道初の公立夜間中学である札幌市立星友館中学校について、令和4年度は、小樽市、江別市、千歳市、恵庭市、北広島市から合計9名の方が入学されました。

二つ下の赤字の項目の圏域外からの移住促進といたしましては、今年1月に東京の神田明神文化交流館において北海道さっぽろ圏移住フェア2023を開催いたしました。連携市町村の皆様にごブース出展をしていただき、当日は約200名の方にご来場をいただいたところでございます。

続きまして、A4判縦の資料3をご覧ください。

各事業に設定しております評価指標の達成状況についてご説明いたします。

まず、上段の表には、連携事業ごとに設定した全80個の評価指標の昨年度の達成状況を記載しております。このうち、評価時期がまだ到来していないなどの理由により横バーの評価不可となっている9指標を除いた71指標について、二重丸の達成済みとなったのは47指標と約7割を占めております。また、新型コロナウイルス感染症の影響でバツの未達となった9指標を除きますと約8割が達成済みとなり、コロナ禍においても一定の事業遂行ができたものと考えております。

また、下の段の三つの役割における重要業績評価指標についてですが、実績値の欄は、2021年の古い数字とはなりますが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、悪化しており、2022年においても大きな改善はしていないものと思われまます。引き続き、指標の達成に向け、圏域全体で取組を進めていきたいと考えております。

最後に、A4判横の資料4をご覧ください。

さっぽろ連携中枢都市圏における今年度のスケジュールについてご説明をいたします。

上から２段目の現ビジョンの欄ですが、今年度は、統一地方選挙が実施されたことから、選挙の後、補正予算が成立するまで予算が確定しない事業が幾つかございます。そのため、さっぽろ連携中枢都市圏ビジョンにつきましても補正予算成立後の７月に年次更新を行いたいと考えております。

現在のビジョンにつきましてもは今年度末をもって計画期間が終了いたします。一番下の段の第２期ビジョンの欄でございますように、今年度は第２期ビジョンの策定に向けた協議等をさせていただければと思っております。

第２期ビジョンの策定に当たりましては、実務者会議やビジョン懇談会における第１期の振り返りの議論や、各種データ分析によるさっぽろ圏の強み、弱みの把握などを踏まえ、１０月にビジョン案を取りまとめる予定でございます。

取りまとめたビジョン案については、上の段の各種会議の欄でございますように、１０月頃に実施予定の今年度２回目の関係首長会議においてお示しをさせていただきますので、ご意見を賜りたく存じます。

その後、各自治体内の合意形成を経て、１月にパブリックコメントを実施し、３月に公表というスケジュールとなっております。この間、連携市町村の皆様には様々な調整をお願いいたしますが、ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

なお、今回策定する第２期ビジョンについては、連携協約とは異なり、議決事項とはならないことを申し添えます。

長くなりましたが、私からの説明は以上でございます。

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） 昨年度の連携事業の実施状況と今後のスケジュール等についてご説明をさせていただきました。

３．意見交換等

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） それでは、意見交換に入らせていただきたいと思います。

今回は、本市からご説明を申し上げました取組概要及び第２期ビジョン策定のほか、今後のさっぽろ圏に対する期待等についてご意見をいただければと考えております。また、各市町村における現状の課題等もございましたら、ぜひご発言をいただければと存じます。

まず、小樽市の迫市長様から時計回りでご発言をお願いいたします。

迫市長様、よろしくお願いいたします。

○迫俊哉小樽市長 小樽市長の迫でございます。

連携中枢都市圏の取組についてですが、全国的にも、また、圏域も人口減少が進む中にあるので、自治体間の広域的な連携を進めていくことは大変重要だと思っております。

これまでも、圏域では、地場産品の販路拡大、あるいは、輸出の拡大、企業誘致、観光情報の発信、移住イベントへの出展などに共同で取り組んでまいりました。単独では実施することがなかなか難しい取組だと思っておりますので、これらに連携して取り組んでい

くことは大変有効だと考えております。

また、小樽からも在籍者がおりますけれども、公立夜間中学校の共同利用が実現いたしましたして、大変感謝をしております。現在、在籍が2名ということを確認しておりますけれども、市としてもさらに多くの皆さんに利用していただけるよう周知に努めていきたいと思っております。

引き続き、こうした取組を進めていくことを小樽市としても要望いたしますし、それぞれが札幌市に近いということ、あるいは、医療機関、大学が集積していたり、災害も比較的少ない地域だと思っておりますので、こういった利点をアピールしながら、また、それぞれが持つ自治体の強みや地域資源も生かしながら、移住や観光、そして、投資の面から選ばれる圏域を目指していくことは大切な取組ではないかと考えております。

また、先ほどの資料の中にもありましたMICEの誘致の推進につきましては、コロナ禍で十分な取組ができなかったと認識しております。資料の中でも達成不可の事業の中に入っておりますが、コロナ禍も収まってまいりましたので、小樽市の希望といたしましては、今後は、MICEの誘致の推進に期待をしたいというよりも、一緒に取り組んでいきたいと考えているところでございます。

それから、もう一つ希望を申し上げさせていただきますが、連携中枢都市圏の取組をする上でパートナー企業の存在というのは私どもとしては大変心強く感じております。全国的にも民間の力を活用して成功しているまちづくりの事例などが数々ありますけれども、民間の力、とりわけ、資金面だけでなく、ノウハウの面などでも民間の力をお借りして、いわゆるウィン・ウィンの関係を築きながらまちづくりを進めていきたいと考えているところです。

そこで事務局の方をお願いを申し上げたいのは、せっかくパートナー企業の存在がありますので、時々、意見交換の場などを設けていただければということで、これからのまちづくりに参考になるご意見をいただけるのではないかなと思っております。

私からは以上でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） どうもありがとうございました。

パートナー企業との意見交換の場についてはこれまでも何度か設定させていただいておりますが、また今後も考えていきたいと思えます。

続きまして、岩見沢市の松野市長様からよろしく願いいたします。

○松野哲岩見沢市長 岩見沢市長の松野でございます。

数点あるのですが、最初に、コロナ禍という大変苦しい時期を過ごしてきた中でも、先ほどのご説明では、事業の達成済みが約7割、どうしてもコロナでできないことを除けば8割ということで、本当にすばらしい取組を実践していただいたことに心から感謝を申し上げます。札幌市の事務局の皆さんは大変ご苦勞をなされたと思います。改めて感謝を申し上げる次第です。

ここで岩見沢市にとってちょっとショッキングな数字を申し上げます。

岩見沢市の昨年の出生数は287人でした。ということは、6年後の新1年生は287人のレベルで推移するわけですが、これは10年前の平成24年の579人の約半分です。岩見沢市の実情を言えば、高齢者人口は2030年ぐらいまでは大体横ばいで推移するというので、社会増減に対し、それぞれの自治体は色々な取組をするのですが、出生数がこれだけ減ってしまうのです。これを合計特殊出生率に直すと、岩見沢市は札幌市の出生率とニアリーイコールだったのですが、昨年1年間で0.99と1を切っているという非常に厳しい状況があります。今後は、高齢化も進行し、人口減少は加速、また、産業の担い手不足が本当に顕著になってくるという大変な危機感を持っていますし、これは全国的な課題だと認識をしています。

ただ、そんな中で、さっぽろ子育て情報サイトの中に、圏域のお出かけスポットとして、岩見沢市のあそびの広場、いわみざわ公園、ふるさとの森冒険ランドを掲載していただいております。室内公園のあそびの広場は、コロナ前は年間約6万人の方にご利用をいただいていた。昨年度は、ようやく少し回復してきて、個人の利用で約3万3,000人でしたが、そのうち、64%の約2万1,000人は、さっぽろ圏域にお住まいの方のご利用となっています。

先月には、南幌町に子ども室内遊戯施設のはれっばがオープンし、大変にぎわっているというお話を聞いておりますが、圏域内において人口減少や特に少子化が進行する中で、このような取組は、お互いの市町村の持つリソースを相互に利用しながら、さらに人や資源などを循環させる、そして、地域経済の活性化を図っていく、さらには、圏域全体のサービスの維持と向上にもつながると思いますので、やはりスケールメリットを生かした取組を進めていくことはますます重要だと認識しています。

私は、実は、こういう持論を持っているのですが、札幌市だからできること、そして、札幌市にしかできないことがあると思うのですよ。その代表的なものとして、冬季オリンピックなんかは特にそうだと思うのですが、そういうお互いのリソースを活用しながら、圏域の皆様と一緒にあって圏域全体の活性化を図っていければと考えております。

最後に一つPRですが、岩見沢市は、明治17年に岩見沢村として開村し、開庁140年、そして、昭和18年の市制施行から80周年ということで、今年は節目の年を迎えます。市内にあります北海道教育大学岩見沢校は、美術、文化、芸術、音楽に特化した学科を持っていますが、その学生にロゴマークをデザインしていただいて、共通の旗印というわけではないですが、それを色々な企業の方にも使っていただきながら節目の年を迎えたいと思っています。

なおかつ、北海道教育大学岩見沢校も大正12年に北海道庁立実業補習学校教員養成所としてスタートしてちょうど100年に当たるのです。お互い節目の年ということで、9月、10月にそれぞれ式典を行いますけれども、その前後に岩見沢校と連携していわみざわ芸術文化・スポーツの祭典を開催し、市内各所で様々な展示会や音楽の発表会、あるいは

は、スポーツ関連のイベントなどを実施して、関係者の皆様、そして市民の皆様とともに祝いたいと考えておりますので、ぜひ皆様にも機会がありましたら本市に足を運んでいただき、ご覧いただければ幸いと存じます。

私からは以上です。ありがとうございました。

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） 松野市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、江別市の川上企画政策部長様、よろしく願いいたします。

○川上誠一江別市企画政策部長 江別市の企画政策部長の川上と申します。

本日は、当市の市長が急遽都合により欠席することになりましたので、私が代理にてご挨拶をさせていただきたいと思っております。

北海道様をはじめ、圏域の市町村の皆様におかれましては、今年度も何とぞよろしくお願い申し上げます。

さて、先ほど札幌市様から連携中枢都市圏の事業実施状況についてご説明をいただきましたが、令和4年度までに達成済みの主な事業のうち、公立夜間中学の共同活用につきましては、先ほど小樽市長様からもお話がありましており、当市からも入学者がおり、市民が修学の機会を得ております。誠にありがとうございます。

また、スタートアップ企業とのマッチング事業におきましては、当市でも消防本部が今年度から企業との実証実験に取り組むなど、行政課題解決の糸口をご提供していただいております。これは大変有意義でありがたいことだと存じております。

連携中枢都市圏のこうした一連の事業は、圏域の中で対応するスケールメリットが非常に大きく、非常に有益であるものと考えておりますので、次期ビジョンの策定を控える今後におきましても、圏域全体の機能を強化して魅力をより高められるように期待しているところでございます。

この場をお借りしまして、当市のお話をさせていただきたいと思っております。

市長の後藤は、本日、欠席でございますが、4月の統一地方選挙で当選した際、市政を担うに当たりまして、重点的に取り組むべき事項を以下のように掲げております。子育て支援や女性の活躍支援、次に、市立病院をはじめとする地域医療体制の充実、交流人口増加や商工業振興による地域経済の活性化、子どもが生き生きと学べる教育環境の充実、社会のデジタル化、脱炭素社会に向けた取組などによる自然環境の保全、そして、遊休未利用地の活用などによる都市基盤整備、最後に、自然災害に強い安心・安全なまちづくりでございます。これらの課題に取り組みまして、目指すべきまちの姿を実現すべく、現在、新たな第7期の総合計画の策定を進めているところでございます。

圏域の自治体の皆様も当市と同様に多くの課題があろうかと存じますし、本日、このように皆様の意見を伺う機会を持たせていただいたことは、大変ありがたく思っております。引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

失礼いたします。

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） 川上部長様、どうもありがとうございました。

続きまして、千歳市の横田市長様、よろしくお願いいたします。

○横田隆一千歳市長 このたび千歳市長に就任いたしました横田でございます。改めて、どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日は、圏域自治体の皆様とこのように一堂に会して協議できる大変貴重な場であると認識をしております。

また、先ほどもご説明がありましたけれども、例えば、夜間中学の共同利用や企業への補助などの連携事業において色々な形でお世話になっておりますことに改めてお礼を申し上げます。

もう一つ、この機会をいただき、お礼を申し上げたいことがございます。現在は落ち着きましたけれども、3月から4月にかけて当市で発生いたしました鳥インフルエンザへの対応についてであります。圏域自治体の皆様方におかれましては、業務が多忙な中で職員を派遣していただくなど、ご支援とご協力をいただきましたことに、この場を借りまして厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

道央地区につきましては、それぞれの地域が持つバラエティーに富んだ特産品でありますとか、多様な観光資源、空、陸、海などの交通網の優位性などのほか、最近では、ポールパークの開業、北海道新幹線の札幌延伸、そして、このたびのラピダス社の進出と多くの事業が予定されており、今後も発展する要素を有していると考えております。

この連携中枢都市圏におきましては、人口減少などの社会情勢の変化や住民ニーズが多様化する中で、一つの自治体では解決することがなかなか難しい課題の解決、また、行政事務の効率化が図られるものとして現在も様々な取組がなされておりますけれども、今後も、圏域が持つ様々な魅力や利点を結集していくことで高い相乗効果が生まれ、スケールメリットがますます発揮できるものと考えているところであります。また、来年度からは新しいビジョンがスタートするということでもあります。

さらに、先ほども申しましたように、今回のラピダス社の進出に伴いまして、サプライチェーンや住環境など、様々な受皿の整備が早急に求められることとなります。周辺自治体や連携中枢都市圏の皆様には、色々な形で連携させていただくなど、また、お世話になるかと思いますが、情報共有を一層図ってまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上であります。

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） 横田市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、恵庭市の大槻企画振興部長様、よろしくお願いいたします。

○大槻雄二恵庭市企画振興部長 恵庭市企画振興部の大槻と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日、当市の原田市長は、公務が重なっております、現在、こちらに向かっているところでございますので、代わりまして、一言、発言をさせていただきます。

初めに、秋元札幌市長様をはじめ、本日お集まりの関係市町村長の皆様には、日頃より

多岐にわたるご協力をいただいております、この場をお借りして感謝とお礼を申し上げます。

また、さっぽろ連携中枢都市圏では様々な事業を展開していただいております、その中心的な役割を担っていただいております札幌市様には大変感謝をしております。誠にありがとうございます。

さて、先ほど札幌市様からご説明のありました各連携事業の実施状況ですが、新型コロナウイルス感染症の影響を除きますと、約8割の評価指標が達成されている状況でありまして、着実に連携事業が圏域で浸透し、実行されているものと認識しております。

それから、先ほど来、各市長様が言うておりましたが、公立夜間中学校の共同活用につきましては、本年、当市からも3名の在籍者がいると伺っております。規模などの問題もあり、市町村単独ではなかなか設置が困難なところですので、圏域に住んでおられる方々が利用できるこうした仕組みに札幌市を中心として圏域で取り組んでいただいていることに非常に感謝しているところでございます。

また、創業の促進事業の一つでございます「Local Innovation Challenge HOKKAIDO」については、恵庭市も令和5年度事業として2件の採択を受けているところであります。内容は、スタートアップ企業でありますwhat3words様とGAUSS様とマッチングをしていただくもので、現在、それぞれの企業様と実証実験に取り組んでいこうとしているところでございます。今後とも、地域課題や行政課題の解決に向け、適切なマッチングをすることでスタートアップ企業と行政が協働しながら課題解決が図れることに期待しております。

続きまして、ご説明のありました第2期ビジョンの策定についてですが、当市といたしましては、今後も、この圏域の豊かな自然をはじめとした様々な魅力あふれる資源を積極的にセールスしていくことやその着地点となります関係人口の増加に取り組んでいくことが大切ではないかなと考えております。

また、2019年に本ビジョンが策定され、改定なども行われているところではございますが、本圏域を取り巻く情勢は、先ほど来、皆様が述べておりますとおり、非常に速いスピードで移り変わっておりますので、そうしたことを勘案しましたビジョンとなりますことを期待しております。

最後となりますが、今後も積極的に圏域の取組に参画してまいりたいと考えておりますので、引き続きどうぞよろしく願いいたします。

私からは以上となります。

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） 大槻部長様、どうもありがとうございました。

続きまして、北広島市の上野市長様、よろしく願いいたします。

○上野正三北広島市長 北広島の上野でございます。

いつも大変お世話になっております。

3月30日に皆様方のご理解とご協力を得て取組を進めておりました北海道ボールパークFビレッジが無事に開業したところでありまして、これまでのご協力に改めて感謝を申

し上げる次第であります。

5月8日に新型コロナウイルス感染症が5類に移行することが決定したこともあり、4月以降、道内外からさっぽろ圏に多くの観光客が訪れておりまして、本市におきましても、三井アウトレットパークでの外国人買物客、そして、市内のホテルの宿泊者が増加をしているところであります。

なお、ボールパークにつきましては、3月12日にプレオープンし、5月14日現在、約2か月ではありますけれども、90万人の方々に訪れていただいております。道内が80%、道外が20%となっており、試合のない日もオープンしておりまして、平日で1,000人から5,000人、休日は5,000人から1万人が訪れているということで、人流の回復を実感しているところです。

一方で、本市につきましては、少子高齢化・人口減少対策が喫緊の課題となっているところであります。人口は、本年4月末で5万7,000人でありまして、平成19年の6万1,000人をピークに毎年減少しております。

大きな要因としては自然減でありまして、亡くなる方が年間750人、生まれてくる方が約250人で、500人程度が減っていることになるわけですが、社会増により年間350人から450人の減少に収まっております。ただ、若い世代は増えておりまして、地域によっては小学生が増えているという状況であります。今後は、圏域内の活力を維持し、魅力あるまちづくりを進めることが非常に重要ではないかと考えているところであります。

また、2期目のビジョンについてですが、魅力あるまちづくりを進める上では、住み続けられることと働く場所があることの2点が重要ではないかと考えております。そういう中で、ラピダスが千歳市に建設する次世代半導体工場、また、説明会で表明された北海道バレー構想につきましては、圏域内における安定した雇用の場の創出と企業の集積によりまして、定住人口や交流人口、関係人口の増加など、地域経済の活性化に大きく寄与するものと期待をしております。

それから、公立夜間中学やガーデンフェスタにおける市町村のブースの出展など、圏域の枠組みを生かした取組や住民の安心で快適な暮らしを支える取組は地域内の活性化につながったものと考えており、今後もこうした取組に期待をしているところであります。

このような中で、ボールパークを一つの拠点とした観光周遊なども考えられるところでありまして、道内外や海外の方に対する魅力的な情報発信など、圏域の周遊を促す観光施策も連携して進めてまいりたいと考えております。

また、引き続き、様々な機能や個性を持つ各市町村がそれぞれの強みや特徴を生かした魅力あるまちづくりを進めるとともに、密接な連携と役割分担の下で、域内の住民が安心して快適な暮らしを続けられる取組、また、域外の方が住みたくなる、あるいは、企業が投資をしたくなる取組にも期待しているところであります。

そして、北海道の人口の約半数が暮らすこの圏域には、北海道全体の振興と活性化を視野に入れた先導的な役割を果たすことが求められていると思いますので、今後も、北海道

経済全体を牽引できるよう、スケールメリットを生かした取組を継続していければと考えております。

さらには、DXやGXの分野など、新たな産業とビジネスが生まれる可能性を秘めておりますので、これからはこうした分野への支援についても連携中枢都市圏として役割を持って進めていくことを期待しているところであります。

以上であります。

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） 上野市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、石狩市の鎌田副市長様、よろしく願いいたします。

○鎌田英暢石狩市副市長 石狩市の副市長の鎌田でございます。

札幌市をはじめ、構成市町村の皆様には日頃から大変お世話になっております。改めて感謝を申し上げたいと思います。

それでは、私からは、先ほどからありますように、来年度からスタートする第2期のビジョンの策定を見据えた上で、本市の状況を踏まえながら、何点か意見を申し述べさせていただきます。

最初に、石狩湾新港の関係でございます。

石狩湾新港は、道央圏の物流拠点として発展し、後背地には、ご承知のように、北海道を代表する産業空間があるほか、風力や木質バイオマス、さらには、将来有望と言われていきます水素など、再生可能エネルギーの拠点として、その存在感が増しているところでございます。特に、電力需要の100%を再生可能エネルギーで供給することを目指すエリアであるREゾーンを設定するなど、国際的な課題であります脱炭素の実現を目指すとともに、脱炭素化に意欲的な企業を積極的に誘致し、産業集積を図るなど、経済発展を同時に目指しておりまして、将来にわたって圏域全体の発展を支える役割を担っているものと考えているところでございます。

次に、地域資源の活用です。

本市は、札幌市中心部から車で僅か1時間半程度の圏域に、石狩から厚田、浜益に連なる海岸、そこに生息する海浜植物、さらには、古くからの山道など、優れた景観や自然を楽しめるフィールドがあるほか、新鮮な海産物や農産物にも恵まれております。今後、観光需要が本格的に回復する中で、本市の観光資源が圏域観光の周遊性を高め、観光消費の拡大など、魅力の向上に貢献できるものと考えてございます。

3点目は、圏域における関係人口の創出です。

関係人口の創出につきましては、将来的な移住、定住につながることを期待されるとともに、その地域の魅力を外部の視点で掘り起こし、ブラッシュアップするきっかけにもなると考えてございます。

本市では、郡部においての人口減少が著しく、全ての分野において担い手不足が大きな課題となつてございますことから、改めて行政や地域住民が見えてこなかった課題に気がつくように、全ての部分でそういった人材を活用することは活性化の契機になるのかなど

期待しているところでございます。

また、昨年度、連携中枢都市圏の滞在型関係人口創出事業において、本市の浜益区が実施箇所の一か所に選定されまして、大学生の数名が現地を往来し、第1次産業の魅力向上を中核として関係人口の可能性を見いだすという一定の方向性を見たところでもございます。事業は単年度限りでございますけれども、参加した大学生からは引き続き浜益区に関わりたいという声もあると聞いてございますので、今後、斬新な若い方たちの力で関係人口をどのように作り出していけるのかということをしっかり見守っていきたいと考えてございます。

4点目は、公共施設の相互利用です。

現在、本市は、主に、隣接する札幌市と、斎場、下水道処理施設のほか、雪堆積場の相互・共同利用などに取り組んでおりまして、このことにより、市民サービスの向上や行政コストの低減など、一定の成果が得られているところでございます。

今後、行政コストの効率化の観点からも、公共施設のみならず、救急や安全・安心の分野においても、共通する行政事務の共同処理、さらには、業務のアナログからデジタルへの転換についてなど、広く地域住民にメリットが及ぶ視点も含めて、今後、連携中枢都市圏において重要な課題として取り上げていかなければならないかなと考えているところでございます。

終わりに、さっぽろ連携中枢都市圏の第2期ビジョンの策定に当たりましては、先ほどからご意見がありました人口減少や少子高齢化が進む中、基礎自治体がそれぞれの特徴や強みを生かしながら連携して行政課題に取り組み、圏域としての魅力や活力を高めるという連携中枢都市圏の役割がますます重要になってくるのかなと考えております。

本市といたしましても、今申し述べました本市の強みを圏域全体の活力向上に生かしつつ、圏域全体の活性化を本市の活力にフィードバックするなど、相互補完と相互互惠の関係を構築しながら第2期ビジョン策定に積極的に関与していければと考えてございます。

今後とも、札幌市を中心とした圏域市町村の皆様としっかり手を携えながら、人口減少、少子高齢化の進行を少しでも食い止め、持続可能な圏域の実現に向けて、共に進んでまいりたいと考えてございますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思ひます。

私からは以上です。

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） 鎌田副市長様、どうもありがとうございました。

続きまして、当別町の後藤町長様、よろしくお願ひいたします。

○後藤正洋当別町長 当別町の後藤でございます。よろしくお願ひいたします。

さっぽろ連携中枢都市圏のそれぞれの市町村の皆様にはいつも大変お世話になっておりますことに心からお礼を申し上げます。

当別の現状と今後のこの圏域への期待について、若干、考えを述べさせていただきます。

本町では、昨年、ロイズタウン駅が開業しましたほか、4月8日には、一体型の義務教

育学校として、とうべつ学園が開校いたしまして、立て続けの大型事業が一段落をしたところでもあります。

また、人口については、新築住宅の購入支援と相まって、20年ぶりに社会増となりまして、一昨年はプラス9人、昨年はプラス155人でした。しかしながら、今までもお話がありましたように、自然減を抑えることができませんで、人口増とはなっておりませんが、今、教育で再生をするべく、色々と準備をさせていただいております。

特に、デジタル関係では、この4月から民間企業であります株式会社シーラクスに幼児から中学生までを対象としたプログラミングスクールを町内に開校していただいたほか、学校に対しても6月からICT支援員を配置するなど、STEAM教育の実践に向けて一歩を踏み出したところでございます。

このほか、ロイズタウン駅周辺の自動運転バスの実証運行事業、あるいは、札幌市にもご協力をいただく形で、当別から札幌に通勤されている方たちが札幌市役所の中からリモートで行政手続きができるように、リモート窓口の設置を進めているところです。

次に、今後のさっぽろ圏への期待についてですが、少子化を克服するという点では、愛媛県が県を挙げて人口減少対策として結婚の支援や出会いの場の創出といった取組をされておりまして、成果を上げておられます。少子化というのは、当別、あるいは、単独の市町村だけではなかなか克服できませんし、今後は、できれば、さっぽろ圏域を挙げて少子化対策に取り組むためのマッチングアプリの開発や採用ができたらいいなと思っておりますので、第2期のビジョン策定の中でご検討をいただければと思います。

また、アフターコロナを見据えて、昨年、松山市から、ロイズタウン駅に近いロイズ工場の見学と併せて、300名弱の観光客をお招きすることに成功いたしました。今は、Fビレッジの開業など、さっぽろ圏が大変熱くなっておりますので、もう既にご協議をいただいていると思えますけれども、観光で地域を結びつけていくことや、ビッグデータを収集してそれを活用するような取組をさらに進めていただければありがたいと思っております。

それから、今、庁舎内では色々とDXを進めておりますが、今後は、地域をどうDX化していくかということが一つの課題になってくるかなと思っております。

今日は、皆様に地域コミュニティアプリ「ピアッツァ」という資料をお配りしておりますが、裏面には、今、首都圏においてどういったところが採用されているかというエリアを示しております。今後は、行政データと民間データを融合させて、データ駆動型地域社会の実現を図ってまいらなければなりません。地域をDX化していくという点では、住民の皆さんがそれぞれアプリを使って集団化していく、あるいは、情報を交換していく、それも大変使いやすいもので、なおかつ、外国の資本によるアプリやデータの管理ではなく、日本独自のアプリ、データの管理ということが今後求められてくるのではないかなと思っております。

時間がありませんので、多くは語りませんが、この「ピアッツァ」については、今、

札幌市の北区で実証実験が行われていると伺っておりますし、ここ数年、首都圏で大変伸びているアプリケーションであります。子育ての面ですとか、物の交換ですとか、色々な使い方ができますし、町内会の中で若い方がこのアプリを使って町内の情報を取得するなど、色々なエリアとしての使い方ができます。

しかしながら、基本的には20万人以上が対象であり、残念ながら当別では単独で使うことができません。さっぽろ圏でそれぞれの市町村がこのアプリを導入すれば、北海道全域がこのアプリを使って、日本独自のビッグデータを活用していくという道も開けていくのではないかなと思っておりますので、ぜひご検討をお願いしたいと思います。

以上でございます。ありがとうございました。

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） 後藤町長様、どうもありがとうございました。

続きまして、新篠津村の石塚村長様、よろしく願いいたします。

○石塚隆新篠津村長 新篠津村の石塚です。

今日は、よろしく願いいたします。

皆様には、いつも大変お世話になっております。

私からは、村の状況やこれからの連携中枢都市圏に期待していることを少しお話しさせていただきたいと思っております。

新篠津村は、この中で一番小さな村でありますし、人口も一番少ないということで、皆さん方の状況とは若干違うかと思っております。

私どもは農業が基幹産業であります。その中でも米が特出しているといえますか、半分以上が米をつくっております。今のところ、道内では8番目の作付面積で、9番目の生産量を誇っているところでございます。コロナによって、米だけではなく、牛乳や砂糖の消費も落ち込みましたが、やっとここに来て回復してきたということであります。

今は、物価高の中でも米の値段が一番安定しているということで、この間もテレビでやりましたが、札幌市内にもおにぎり屋が増えたということでありますし、東京都内でも増えているということでありますので、今は米というものが少し見直される時に来ているのかなと思っております。

また、新篠津村では、三、四年前からJAが中心になって米を海外に輸出するための取組を行っています。今は、シンガポールや香港、それから、一部、アメリカにも輸出をしておりますが、この圏域の中でお互いに連携していけば、米だけでなく、また面白い輸出品ができるのではないかと私は期待をしておるところでございます。

そして、新篠津村では、今、何といたっても、やはり人口減というのが皆さんのところと同じようにあります。実は、ここに載っている人口は3,300人になっていましたけれども、今は2,845人くらいに減ってしまいました。このコロナ禍の中で特に減ったかなと感じております。そんな中、これからは、地域をPRするとか、関係人口の創出、地域力の向上を図らないといけないと感じておりまして、村としてはイメージ戦略を持って観光PRや地域PRを進めていきたいと考えております。

さらに、これはPRになるかと思うのですけれども、関係人口を増やしていく、地域をPRするという意味で、新篠津村では今までも青空まつりというものをやっており、今年で3回目になる天灯（ランタン）祭りというものも2月にやったのですけれども、おかげさまで村内外から1,500人ぐらいの方に集まっていただきました。また、石狩川の河川敷にはグライダーの滑空場もありますし、これからは空というのを新たな観光ブランドにしていきたいなと思っているのです。

その中で、今年は、実は天文台を建設する予定であります。天文台と言うと、皆さんはとんでもないことを考えていると思うかもしれませんが、そんな大げさなものではありません。私は小さなまちの小さな天文台と言っていますが、ある方から大型望遠鏡が寄贈されましたので、それを基にして建設する予定であります。

今までも、マニアの方に集まっていたいて、手持ちの望遠鏡での星座観測会を4回ほどやったのですが、毎回200人以上の方に集まっていたいたのです。星というのは、私はふだんから見ておりますが、やっぱり違う感覚だなと思ひまして、札幌市と比較すると怒られるのですけれども、札幌市よりも30倍以上はきれいに見えます。

この天文台については、これから、観光振興とともに、子どもたちの学習の場、そして、ふだん大型望遠鏡を触れない方にぜひとも触れていただくなど、村内外の方々が触れ合えるところにしたいと思っております。

先ほども言いました観光振興に加え、圏域の中でそれぞれのまちが持っている特徴を捉えながらお互いに連携していくということはこれからのさっぽろ連携中枢都市圏のビジョンに大きく関わってくると思ひますので、皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます、私の話を終わりたいと思ひます。

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） 石塚村長様、どうもありがとうございました。

続きまして、南幌町の大崎町長様、よろしくお願いいたします。

○大崎貞二南幌町長 南幌町の大崎でございます。

圏域の首長の皆様には平素より様々な機会でご支援を賜っておりますことに心から感謝とお礼を申し上げます。

先ほど松野岩見沢市長からお話をいただきました全天候型子ども室内遊戯施設はれっぴが5月3日にオープンいたしました。オープンに先立ちまして、4月29日に挙行了した開業式典に際しましては、ゴールデンウィーク中にもかかわらず、圏域自治体の皆様にご出席を賜りましたことにこの場をお借りしまして厚く御礼を申し上げます。

オープンして1か月が経過し、昨日までの入場者数は約2万7,000人と、おかげさまで予想を上回るペースとなっておりますが、実は9割が札幌市をはじめとした圏域の皆様のご利用となっております。今後は、圏域の交流施設などと連携を図り、圏域内の周遊促進に努めてまいりたいと考えておりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、本町では、子育て世代を中心に昨年5月より毎月の人口が連続増加中で、平成1

0年以來、24年ぶりに人口増加に転じることができたところでございます。

さて、さっぽろ連携中枢都市圏の第2期ビジョンの策定に向けたこれからの取組についてでございますが、本町では、昨年度、国のデジタル交付金を活用し、子ども室内遊戯施設を含めまして、町内4か所にデジタルサイネージを設置いたしました。設置事業者は、JR北広島駅並びに新さっぽろの商業施設においても同様のデジタルサイネージの設置を予定しておりますことから、現在、それぞれのサイネージを活用し、相互の情報発信を検討しているところでございます。このようなデジタルを活用した相互の情報発信に圏域全体で取り組むことはさっぽろ圏の魅力を圏域内外のより多くの皆様に知っていただく機会になるのではと考えております。

また、ビジョンには昨年4月の変更で新たに子育て環境の向上に向けた取組の推進が登載されましたが、現在、国において異次元の少子化対策が検討されていることでもありますので、今後も、圏域自治体が連携し、子育て環境の向上、充実を図るとともに、効果的な情報発信により子育て世代に札幌圏域をアピールすることが重要ではないかと考えております。

私からは以上でございます。

よろしくお願い申し上げます。

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） 大崎町長様、どうもありがとうございました。

最後に、長沼町の齋藤町長様、よろしくお願ひいたします。

○齋藤良彦長沼町長 長沼町の齋藤でございます。

さっぽろ連携中枢都市圏に参加をさせていただき、皆さんとともに色々な事業を推進できますことに本当に感謝を申し上げます。

それでは、若干、お話をさせていただきたいと思ひます。

先ほどの説明の中にもありました圏域外からの移住促進についてですが、本町も、移住相談会への出展を積極的に行っておりますほか、本年1月に東京で開催されましたさっぽろ圏移住フェアにも参加をさせていただきました。本町は人口減少が大変緩やかに抑えられているところですが、これは、札幌市をはじめ、さっぽろ圏の市町村の魅力があつてのことと強く感じたところでございます。今後も、色々な事業を通して、圏域外からの移住促進、圏域外への流出の抑制を共に進めていければと考えております。

それから、PRでもありますけれども、本町の観光施設でもあります道の駅マオイの丘公園に併設している農産物直売所をファーマーズマーケットとして改築いたしました。また、ながぬま温泉に併設しているジングスカンコーナーもそれぞれ改装工事を行い、ひつじの旅という新たな店名をつけて、この春からリニューアルオープンをしたところでございます。

さらに、昨今のコロナの落ち着きもあり、本年度から、長らく休んでいましたグリーンツーリズム事業、農業体験、農家民宿の受入れを再開したところでございます。本町は農業のまちですので、食の魅力を生かした圏域での取組にも大きな期待をいたしているところ

ろでございます。

また、近年は、農村の風景や景観の価値を生かしながら活動したいという企業参入も増加しているところでございます。全国的に大変知名度が高いさっぽろ圏の強みを生かした取組を今後も進めていければと考えてございます。

最後に、このさっぽろ連携中枢都市圏の形成時に空知から参画をさせていただきまして、全ての事業には参加できていないという状況もございますが、参加することにより、情報交換、情報共有の幅が広がりましたので、改めて圏域の市町村の皆様へ感謝を申し上げます。第2期ビジョンにおきましても魅力ある圏域としてますます発展するような各種取組が行われることを大きく期待しておりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） 齋藤町長様、ありがとうございました。

皆様、大変貴重なご意見をいただきまして、どうもありがとうございます。今日いただいたご意見につきましては第2期ビジョン案の検討の場でも生かしてまいりたいと考えております。

まだまだご意見をいただきたいところですが、お時間の関係もございますので、大変恐縮ですが、意見交換はここまでとさせていただきます。

4. 閉 会

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） それでは、最後となりますが、札幌市長の秋元より閉会のご挨拶をさせていただきます。

○秋元克広札幌市長 今日、色々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

皆さん方から、連携中枢都市圏のスケールメリットを生かした取組として、公立夜間中学の共同利用や合同での外へのアピールというのは非常に有効だというお話をいただいたと思っています。逆に、札幌市は、市内に子どもの遊び場をつくってほしいなど、色々な要望はされるのですけれども、土地の確保などがなかなか難しいので、先ほど来お話がありましたように、南幌町様の施設や北広島市様のFビレッジ、また、道の駅もそうですけれども、そこに札幌市民が子どもたちを連れていくということになればいいなと思っています。そうすれば、札幌市民も楽しめますし、外から来られた方にも、仕事の場や遊びの場も含めて、さっぽろ圏は非常に充実しているということをアピールしていけるのではないかなと思っていますし、これからは、観光面のみならず、企業誘致にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

それから、スタートアップの関係ですが、スタートアップ企業の皆さんにとっては、逆に、地域課題の解決のための具体的なテーマをもらえることが魅力につながっているということです。札幌も、今、スタートアップのキャンプをやっていますけれども、非常に注目されています。この取組は、地域の皆さんの課題解決にもつながりますが、スタートア

ップの人たちのビジネスチャンスにもつながっておりますので、これはこれからも注目をされていく一つなのではないかなと感じております。

当別町様からも、圏域でのアプリの活用による地域の情報化など、色々なアイデアをいただきました。これは、パートナー企業の皆さんの情報とも連動させることによって、よりウィン・ウィンの関係ができてくるかなと先ほどのお話を伺いながら思ったところです。こういった提案もさせていただき、2期目のビジョンづくりにつなげていければと思います。

一方で、札幌もそうですけれども、やはり出生率がなかなか増加をしてきません。岩見沢市様からもちょっとショッキングな数字というお話をいただきましたが、自然減というのはなかなか歯止めをかけるのが難しいので、圏域の中で少子化対策も課題として議論していく余地があるかなと考えております。

それから、ゼロカーボンについても、石油を含めた鉱物資源というのは北海道だけで見ても1兆円の域外流出なのです。これを再生可能エネルギーの地産地消につなげていけば、外に1兆円のお金が流出するということに歯止めをかけることもできますし、今、投資への関心が非常に高まっている状況がありますので、これらも圏域の中で取り組んでいければなと思っております。

そういう意味では、これからも、行政の効率化やスケールメリットを出すために共同で利用し合うということ、また、地域の情報化という点は、スピードが非常に速いですし、個々でやっていくと、投資の無駄と申しますか、効率が悪いときもありますので、こういったことも一緒になって取り組んでいければいいかなと思っております。

連携中枢都市圏は国内に多数ありますけれども、冒頭に申し上げましたように、200万人以上の人口規模の都市を持っているのはさっぽろ圏だけです。そういう意味では非常に大きな圏域であり、また、バラエティーにも富んでおりますので、これからはそれぞれの強みやよさというものを組み立てていけるのではないかなと思っております。非常に面白い展開ができそうだなと思っておりますので、引き続き色々な協議をさせていただければと思います。

本日は、限られた時間ではありましたが、有意義な時間を共有させていただけたかなと思っております。これからも引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございます。

○司会（小角札幌市まちづくり政策局長） 本日は、長時間にわたり、誠にありがとうございました。

以上で第5回さっぽろ連携中枢都市圏関係首長会議を閉会いたします。

以 上